

岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2013

と き 平成25年10月29日(火)～31日(木)
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

南方遺跡 岡山市北区国体町

南方遺跡は旭川西岸平野のほぼ中央に立地しており、瀬戸内地域を代表する弥生時代中期の集落遺跡です。岡山済生会病院病棟建設に先立ち、平成24年度は約4000㎡の発掘調査を実施しました。今回の調査では、多量の土器や石器、木製品、骨角器、鉄製品、青銅製武器類などが出土しています。その他にも、他地域からもたらされた土器に加えて、石器・玉の製作関連遺物が見つかっており、地域間の交流や手工業生産の中核となった拠点的な集落であったことがうかがえます。

また、遺物として注目されるのが、調査区を南北に走る大溝から出土した銅鏃(青銅製の矢じり)です。これは双翼式と呼ばれるタイプのもので、中国の中原地域において戦国時代(紀元前5～4世紀)の頃につくられたとみられており、国内では初の出土例となります。大溝の時期は、弥生時代の中期中葉(紀元前2世紀頃)と考えられることから、銅鏃はつくられてから投棄されるまで200年あまりの長い期間伝世していることになり、大切に扱われたものとみられます。

大森遺跡 岡山市北区大井

大森遺跡は、足守川と日近川が合流した部分の山裾部に位置します。発掘調査は、学校校舎建築に伴って行われました。面積は1,500㎡です。調査区の大半は、旧校舎によって削平されており、部分的にしか残っていませんでしたが、丘陵裾部の狭小な平坦面に縄文時代晩期の集落があり、その周囲を小河道が流れていたことが明らかとなりました。集落の中心部分は、調査区の北側に広がっており、今回はその裾を検出したということでした。

検出できた遺構は土壌などしかありませんでしたが、小河道からは土器や石器が出土しました。とくに、河道との境付近で半分に折れた石棒が出土し、復元すると70cmほどの長さになるもので、全長がうかがえる県下の石棒としては最も長いものです。継続的なムラではなかったようですが、比較的規模の大きなムラであったと推測されます。

他には弥生時代中期の土器や石器、古墳時代や古代、中世の土器も僅かながら出土しています。

史跡 千足古墳 岡山市北区新庄下

千足古墳は、全長350mと全国第4位の規模を誇る巨大古墳「造山古墳」に随伴して、5世紀前半頃に築かれた古墳です。2011年12月に、損傷した装飾文様のある石材の取り出しに成功し現在は史跡整備を計画して発掘しています。全長75mで、上から見ると前方部が小さく、帆立貝のように見えることから、帆立貝形前方円墳と呼ばれます。調査の結果、古墳の周囲に溝状の堀込み(周溝状遺構)が巡っていることがわかりました。周溝状遺構は現在田畑となっている場所の地中に存在しており、このことから千足古墳は従来より一回り大きく全長約80mの規模となることがわかりました。

この溝の中から、埴輪がたくさん出土しました。埴輪の中で注目されるのは、矢を収める容器である「鞆」を模した鞆形埴輪の破片です。この鞆形埴輪には、損傷した装飾文様と同じ「直弧文」が線刻されています。今まで岡山県下では、直弧文のある埴輪は造山古墳で1点採取されているだけでした。造山古墳と千足古墳をつなぐ新たな発見です。

史跡 岡山城跡 本丸下の段 岡山市北区丸の内

史跡岡山城跡では保存整備事業の一環として本丸下の段(テニスコート跡地)の発掘調査を行っています。今回は下の段南東隅の蔵の規模を明らかにすることを目的として3ヶ所のトレンチを設けました。

調査の成果として蔵の北、東、西側の基礎となる石列が検出でき、蔵の規模が東西約23.7mであることが確認できましたが、南側の石列が検出できなかったため、南北の規模は不明です。石列の内側には川砂が詰められていました。また、蔵の北側中央で出入口の基礎の石列を検出しました。東西の石列が二重になっていたことから、この壁は太鼓壁(二重壁)になっていたと考えられます。

今回調査した蔵は床下の砂や出入口の構造から防湿と管理を考えた構造になっていました。湿って困る火薬や嚴重に管理しなければならない鉄砲や弾を保管していたと考えられます。

今回の調査では江戸時代に描かれた絵図ではわからなかった蔵の規模や出入口の構造といった貴重な情報を得ることができました。遺物は江戸時代の瓦片、旧制中学時代の日用品が出土しました。

勘定口古墳群1号墳・3号墳

岡山市東区瀬戸町塩納

勘定口古墳群は、横穴式石室を有する古墳時代後期の古墳群で、岡山市東区瀬戸町塩納字勘定口に所在します。今回の調査は、美作岡山間道路建設に伴うもので、石室が露出している周知の1号墳と調査中に偶然発見された3号墳の調査を行いました。

1号墳は、無袖の横穴式石室を持ち、墳丘の規模は直径14m以上、幅約1.5mの周溝で構成された円墳で、盛土の流出を防ぐために墳丘内に石列が構築されていました。石室の天井石は無く、比較的早い段階で開口していたようです。蓋坏や壺、提瓶、高坏など多量の須恵器、鉄器や耳環などの副葬品が出土しました。さらに、葬送儀礼の痕跡と思われる土師器の甗や壺などが出土しています。出土遺物より、6世紀後半頃に築造され、7世紀前半にかけて数度の追葬が行われたと考えられます。

3号墳は、小規模な横穴式石室を持つ、直径7m程の円墳であると思われます。石室内に副葬されていたと思われる須恵器の時期から、7世紀後半頃のものと思われます。

岡山城三之外曲輪 岡山市北区中山下

病院建設に伴って、旧深柢小学校の校地内を発掘調査しました。江戸時代に岡山藩が作成した城下町絵図によると、調査地点は三之外曲輪と呼ばれる武家屋敷地であったと記されています。

発掘調査では、江戸時代前期～中期(17～18世紀)の武家屋敷地を確認しました。調査範囲は非常に広がったため、一度に複数の屋敷地を発掘できました。各屋敷地の境界は直線上に並ぶ柱穴列(板塀)や、石組の排水溝によって区画されていました。各屋敷地では、井戸や厠(トイレ)のほか、茶碗や壺など、当時の武士たちの暮らしぶりを伝える生活用品や施設跡が確認できました。

この他、絵図に記されていない大きな堀の存在が明らかになりました。この堀は17世紀前半頃に利用され、徐々に埋められていったようです。これらのほか、実際に発掘調査で確認された土地利用の状況と江戸時代の絵図を較べると、調査地点周囲の道路・建物の配置は江戸時代と大きく変わることなく、現在の市街地に受け継がれていることがわかりました。

もっと知りたい!という方は・・・

”埋蔵文化財発掘調査報告会” には是非お越し下さい。速報展で展示した遺跡・遺物のことを発掘調査の担当者が詳しく説明します

●と き 11月9日(土) 13:30～ ●ところ 岡山市埋蔵文化財センター(岡山市中区網浜834-1) TEL (086) 270-5066 *11月8日(金)までに左記に要予約のこと